

新聞を紙面会議 学ぼう

編集局では夕方になる地、海外のニュースのメモと、その日のニュースを翌日、その日のニュースを翌日の朝刊でどう扱うかを決める紙面会議が開かれます。編集局長、次長、各部署の部長、「デスク」と呼ばれるベテラン記者が丸いテーブルを囲み、意見を交わします。



二ニュースの扱いを決める紙面会議

二ニュースの扱いを決める紙面会議
「特ダネ」かどうかを判断の材料となります。
新聞の「看板」ともいえる一面、さらに社会面のトップ記事については、毎日のように熱い議論が交わされます。「取材が不十分だ」「違うニュースはないのか」と厳しい意見が相次ぎ、記者が再取材を命じられることもしばしばです。
毎日届けられる新聞は、

二ニュースの価値熱く議論

取材記者は記事を書く前に、ニュースの要点を「メモ」と呼ばれる短文にまとめ、当番のデスクに送信します。通信社からも国内各

明をもとに、各面で最も大きく扱うトップ記事をどの二ニュースにするかなどを決定します。記事の大きさは読者（県民）への影響、関心度などを考えて判断します。他社は取材していない独自の二ニュース、いわゆる